

原因探り 新しい生き方を

ギャンブル依存でセミナー

強迫的ギャンブルからの回復施設「ワンデーポート」(横浜市)による家族セミナーが六月二十八日、那覇市IT創造館で開かれた。「ギャンブルで借金、離職、失踪、そのとき家族はどうする」をテーマに専門家がアドバイス、当事者が体験を語った。ギャンブルに依存しない生き方を目指し、家族の立場からの対処法を学んだ。セミナーの内容を紹介する。

講師の一人で県内でギャンブル関連問題の家族教室を開くオフィスサーブの安高真弓代表は、ギャンブルの借金がなくなりさえすれば問題は解決するとの思いこみを手放すようアドバイス。借金は依存の結果にすぎず、目を向けるべきは原因、それは本人の課題だと指摘した。

ギャンブル問題発覚と尻ぬぐいの繰り返しに陥っている家族も多いことから、本人の言動に一喜一憂せず、金銭や行動管理をやる必要性を強調。「自分のことは自分で責任を持ち、本人に任せる」ように伝えた。

「ギャンブル依存の背景は多様で、分かりやすく簡単な解決策はなく、回復には時間がかかることを理解してほしい」とも述べた。

自らも強迫的ギャンブル問題があったワンデーポートの中村努施設長は「ギャンブルに依存している間は、生きていく目標が失われている。それを回復しなければ、結局元に戻ってしまう」。ギャンブル

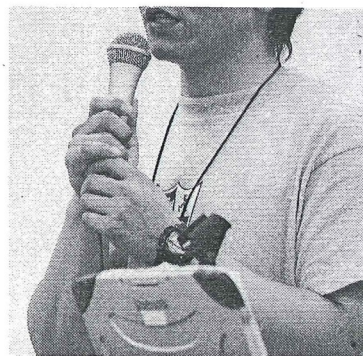
ルをやめる、借金がなくなるのがゴールではなく、新しい生き方を見つけることの重要性を説いた。

ワンデーポート理事長で司法書士の稲村厚さんは、ギャンブル問題を起させまいと、家族が本人の行動管理にとらわれてしまう危険性に言及。本人だけでなく家族も依存問題を学び、自助グループに通うなど、自分の気持ちを整理し心を回復させる必要性があるとした。その上で「家族でも友人でも、ギャンブルの借金肩代わりは悪循環を起す」と強調。保証人でなければ借金返済の法的義務はないと説明し、取り立てには「支払い義務も本人の代わりに返す意思もない」とはっきり言うよう伝えた。

借金肩代わりは悪循環

夫のギャンブル依存症に向き合って五年になるという四十代の女性(那覇市)は「長い時間が必要で、大変なことだとあらためて思った。本人に振りの回されず、毅然とした態度を取りたい」と感想を述べた。

「価値観にゆがみ」 30代男性体験語る



自らの強迫的ギャンブルの体験を語る男性＝那覇市IT創造館

ギャンブルにのめり込み、借金を繰り返し、揚げるの果て会社金を横領してしまつたという三十代の男性が、当時は自分の価値観や考え方自体がゆがんでいたと体験を語った。

男性は、大学時代にスロットを始め、ギャンブル依存となり、百万単位の借金をつくつた。返済のために、こうして増やすしかない。さらにギャンブルに熱中。ギャンブルのお金をギャンブルで返すおかしさに気付けなかった。やがて

「これだけ会社に貢献しているからちよつと借りてもいいだろう」という感覚で横領。病んだ思考が悪循環を生んだ。架空の取引で会社から受け取った金が入った封筒を手にしたときは「何やってるんだろう」と思ったが、自分のおかしさを認めるのが怖かつたという。横領が発覚し、退職。親にも受け入れてもらえず、ワンデーポートにたどり着いた。

だが当初は、逮捕歴のある仲間を見くだし、自分とは違ふと思ひ込んでいた。何が

パチンコ依存問題の相談機関「リカバリーサポートネットワーク」(RSN) (西原町、代表、西村直之)あらかきクリニック院長)に全国から寄せられた二〇〇七年度の電話相談は八百四十六件。うち沖縄は六十七件で都道府県別で二番目に多かつた。

〇六年度は九百八十九件の相談を受け、うち沖縄は九十六件で一位。〇六―〇七年度の総計でも全国一となった。沖縄の相談件数が多い理由は

沖縄 全国2番目に多い

「これだけ会社に貢献しているからちよつと借りてもいいだろう」という感覚で横領。病んだ思考が悪循環を生んだ。架空の取引で会社から受け取った金が入った封筒を手にしたときは「何やってるんだろう」と思ったが、自分のおかしさを認めるのが怖かつたという。横領が発覚し、退職。親にも受け入れてもらえず、ワンデーポートにたどり着いた。

だが当初は、逮捕歴のある仲間を見くだし、自分とは違ふと思ひ込んでいた。何が

度もミーティングを続け、語り合ううち、はつと気が付いた。「自分はたまたま会社が穩便に済ませただけ。結果は違つても、やった行為、考えは同じだ」。回復施設に入り、仕事をしながら、自立を目指すプログラムに参加。しかし決まった額でやりくりするという生活が身に付いておらず、給料をすぐに使い切つた。

「ギャンブルにのめり込むあまり、ほかのことは何もできず、自分の内面が全く成長していないと気付いた」。問題がギャンブルだけではないと分かつたことから、本当の回復が始まつたという。「施設に来て、ギャンブルをやらぬ人生をもらつて本当によかつた。最初は親をうらんだが今は感謝している。やつと少しずつやりたいことが出てきた。生きている充実感がある」

つきのしていない。パチンコを始めた年齢は、男性の多くが十代、二十代。女性では二十代が多いが、開始年齢は全年代層に及んでいる。〇六年度は家族・友人からの相談が本人よりもややつたが、〇七年度は本人からの相談が上回つた。

リカバリーサポートネットワーク(RSN)の電話相談受け付けは、土日祝日を除く月一金曜日の午前十時から午後四時まで。電話050(3451)6420。

ワンデーポート電話045(303)2621。
オフィスサーブ電話09(7464)7183。



安高真弓さん



中村努さん



稲村厚さん